

平成30年8月30日

予察情報30-8

病害虫発生予報 第6号

富山県農林水産総合技術センター所長

9月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	いもち病（穂いもち）	少ない	—	野菜	白ねぎの黒斑病・葉枯病	並	—
	斑点米カメムシ類		—		白ねぎのネギアザミウマ	並	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	やや少ない	—		白ねぎのネギハモグリバエ	多い	—
	アカスジカスミカメ	並			白ねぎのシロイチモジヨトウ	多い	—
	トゲシラホシカメムシ	並	—		ハスモンヨトウ	多い	—
	ツماغロヨコバイ	少ない	—		ネキリムシ類	並	—
	ヒメトビウンカ	並	—		タバコガ類	並	
	セジロウンカ	少ない	—		果樹	果樹のカメムシ類	やや少ない
	トビイロウンカ	少ない	遅い	リンゴ・ニホンナシのハダニ類		多い	—
大豆	紫斑病	やや多い		リンゴの褐斑病		並	—
	フタスジヒメハムシ	少ない		ニホンナシのナシヒメシンクイ		並	—
	アブラムシ類	少ない		ブドウのべと病		並	—
	ハスモンヨトウ	多い		カキ（三社）の炭疽病		やや少ない	—
	大豆カメムシ類	並	—	モモのせん孔細菌病		並	—
	ハダニ類	多い	—	花き 球根	きくのハモグリバエ類	少ない	—
	野菜	白ねぎのさび病	やや少ない		—	ハスモンヨトウ	多い
白ねぎの軟腐病		並	—		タバコガ類	並	

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974
 情報参考 URL
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

I 水 稻

1 いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 8月20日調査の発病株率は0%で、平年（0.0%）並に少なかった。

(3) 防除対策

・ ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。

・ 防除指針 30～31 ページ参照

2 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.02頭で平年（0.22頭）より少なく、確認地点率は2.2%で平年（4.4%）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

・ 晩生品種については、防除終了後もカメムシ類の侵入が多く見られる場合は追加の防除を行う。

・ 防除指針 40～41ページ参照

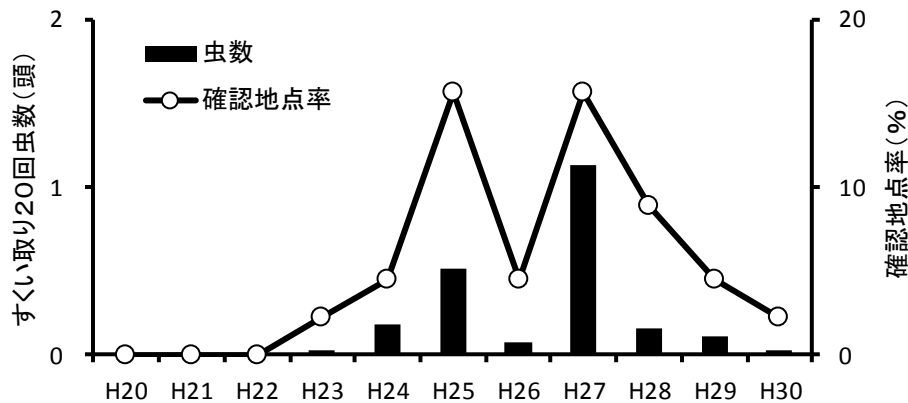


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

3 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.20頭で平年（0.17頭）並、確認地点率は2.2%で平年（6.0%）よりやや低かった。

(3) 防除対策

・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。

・ 防除指針 40～41ページ参照

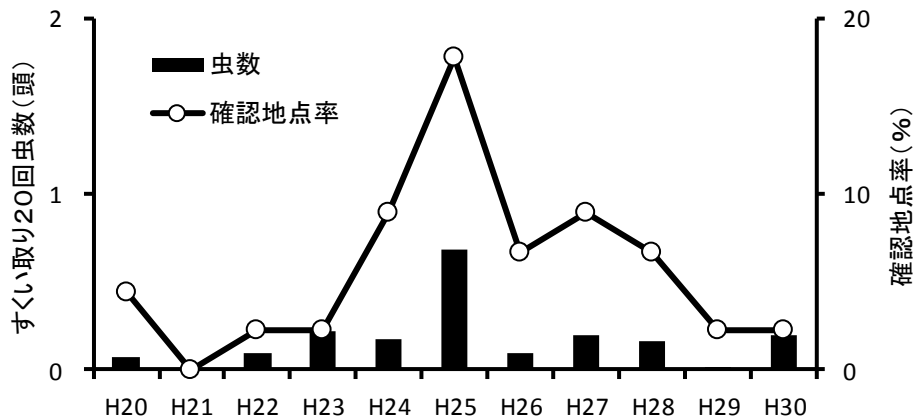


図2 アカスジカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

4 斑点米カメムシ類 (トゲシラホシカメムシ)

- (1) 予報内容 発生量: 並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.05頭で平年(0.06頭)並、確認地点率も4.4%で平年(4.2%)並であった。
- (3) 防除対策
 - ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
 - ・ 防除指針 41ページ参照

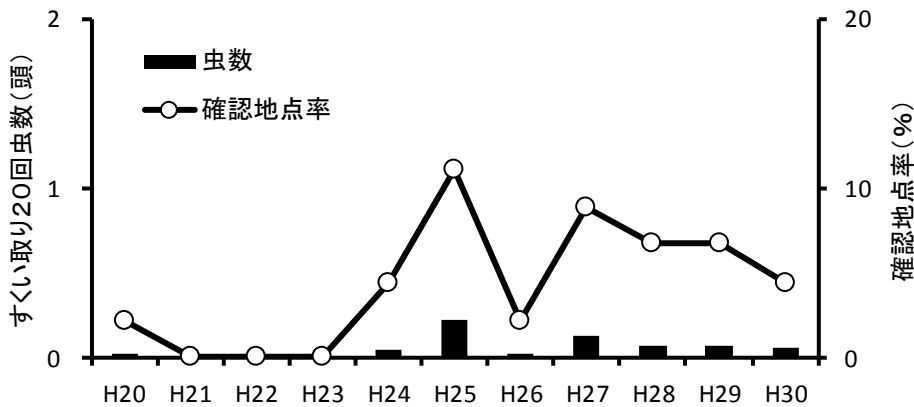


図3 トゲシラホシカメムシの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

5 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量: 少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.6頭で平年(16.5頭)より少なく、確認地点率も11.1%で平年(27.7%)より低かった。
- (3) 防除対策

・防除指針 37ページ参照

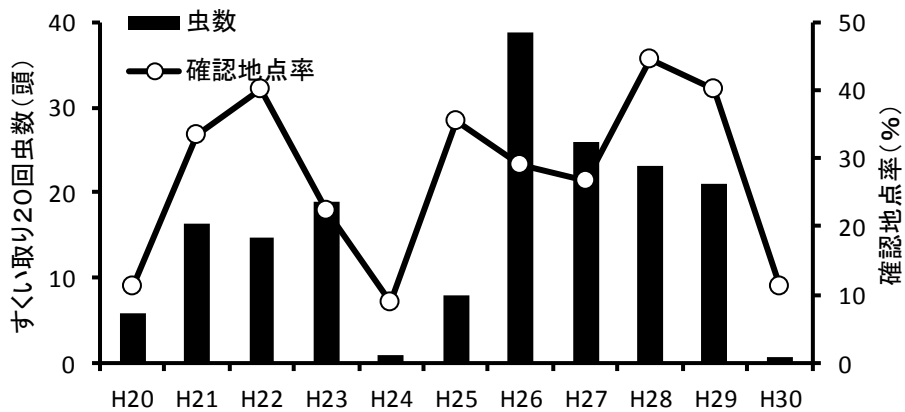


図4 ツマグロヨコバイの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

6 ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・8月20日調査の本田すくい取り虫数は79.5頭で、平年(87.8頭)並であった。

(3) 防除対策

・防除指針 38～39ページ参照

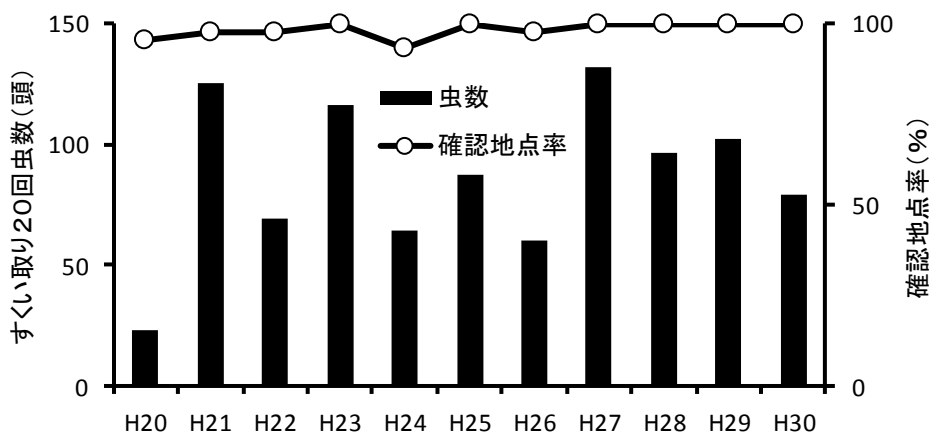


図5 ヒメトビウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

7 セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・8月20日調査の本田すくい取り虫数は本年0.7頭で、平年(5.6頭)より少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 38～39ページ参照

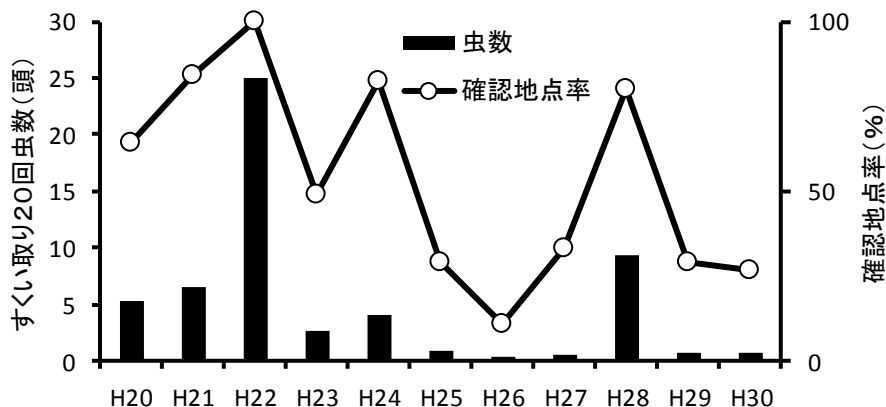


図6 セジロウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

8 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：遅い

- (2) 予報の根拠

【少発・遅発要因】

- ・現在、発生は確認されていない（平年の初発は7月25日）。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 38～39ページ参照

II 大豆

1 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い

- (2) 予報の根拠

- ・9月の降水量は平年並か多いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・刈遅れは発病を助長するので、刈遅れに注意し、収穫後はすみやかに乾燥する。
- ・防除指針 52 ページ参照

2 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・8月25日調査の払い落とし虫数は0.03頭で、平年(2.73頭)より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・払い落とし調査を行ってほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期に防除する。
- ・防除指針 55 ページ参照

3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月25日調査の寄生株率は0.0%で、平年（4.3%）より低かった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 54 ページ参照

4 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は334頭で、平年（186頭）より多かった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 55 ページ参照

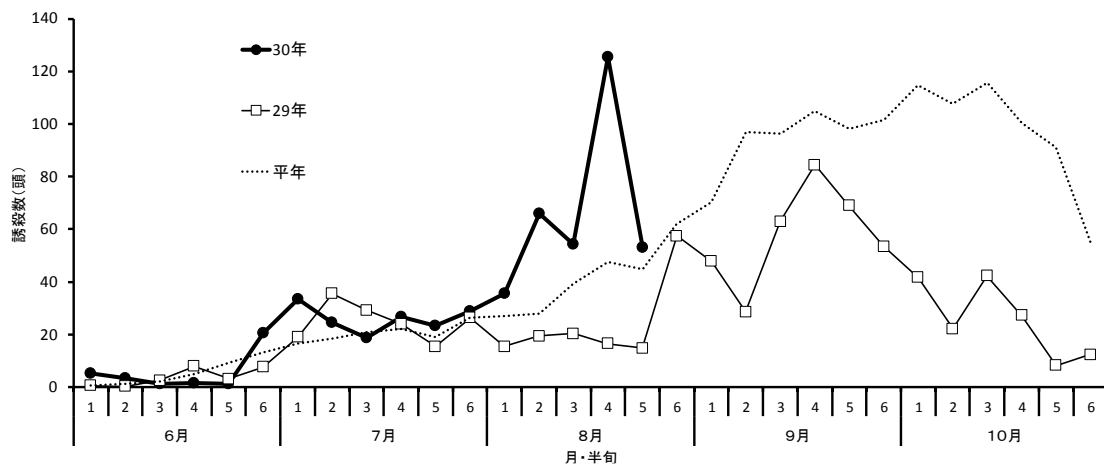


図7 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

5 大豆カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

- ・ 8月25日調査の払い落とし虫数は0.09頭で、平年（0.07頭）並であった。

- (3) 防除対策

- ・ 多発が懸念されるほ場では、ほ場周辺部を中心に払い落とし調査を行い、発生が見られたら防除する。

- ・ 防除指針 54 ページ参照

6 ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

・ 8月25日調査の被害株率は21.1%で、平年（15.6%）より高かった。

- (3) 防除対策
- ・ 発生がみられたら薬剤防除を実施する。その際、薬剤が確実に葉の裏にかかるよう留意する。
 - ・ 防除指針 53 ページ参照

Ⅲ 野菜

1 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 8月25日調査の発病株率は0.0%で、平年（1.5%）より低かった。

- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 110 ページ参照

2 白ねぎの軟腐病

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

・ 8月25日調査の発病株率は0.0%で、平年（5.4%）より低かったが、9月の降水量は平年並か多いと予想されている。

- (3) 防除対策
- ・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
 - ・ 発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。
 - ・ 薬剤散布は発生初期の防除に努め、必ず展着剤を加用して、株元まで薬液が十分に付着するよう丁寧に散布する。
 - ・ 使用薬剤 防除指針 111 ページ参照

3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

・ 8月25日調査の発病株率は0%で平年（11.6%）より低かったが、夏季の高温乾燥により葉先枯れが多発しており、9月の降水量は平年並か多いと予想されている。

- (3) 防除対策
- ・ さび病の防除に努める。

・防除指針 111 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 8月25日調査の被害株率は59.2%と平年(56.6%)並であった。
- ・ 9月の気温はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

・防除指針 112～113 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 8月25日調査の被害株率は35.2%と平年(17.4%)より高かった。

(3) 防除対策

・防除指針 112 ページ参照

6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数は213.2頭で、平年(81.1頭)より多かった。

(3) 防除対策

・防除指針 113 ページ参照

7 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は334頭で、平年(186頭)より多かった。

(3) 防除対策

・防除指針 79～148 ページのハスモンヨトウの項を参照

8 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は、タマナヤガが46.8頭で平年（32.8頭）並、カブラヤガも82.9頭で平年（71.0頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に刈り取る。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 81～145ページのネキリムシ類の項参照

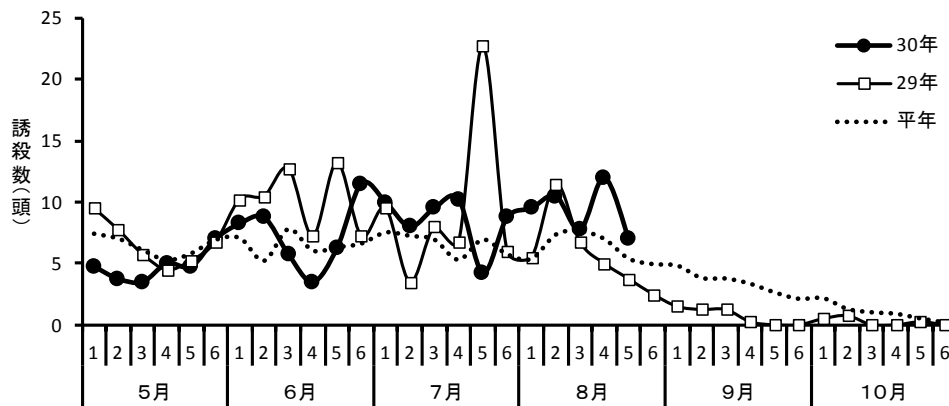


図8 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

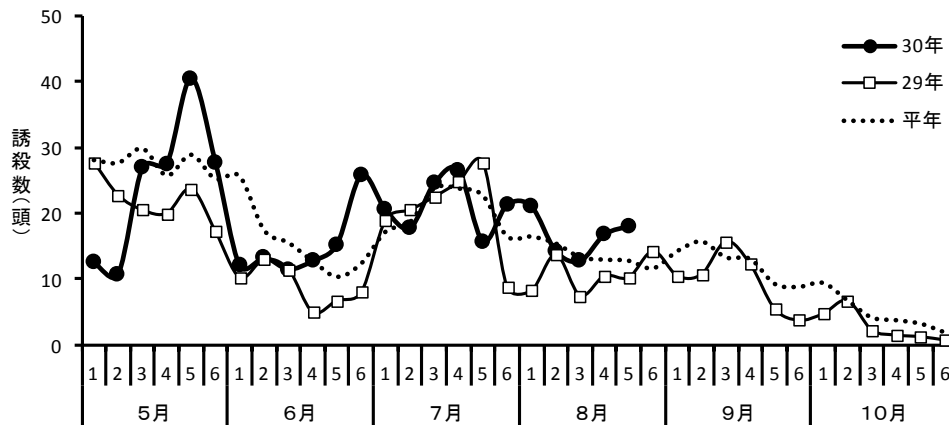


図9 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

9 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが59.0頭で平年（54.1頭）並、オオタバコガも72.7頭で平年（61.3頭）並であった。

(3) 防除対策

・防除指針 79～145 ページの野菜のタバコガ類の項参照

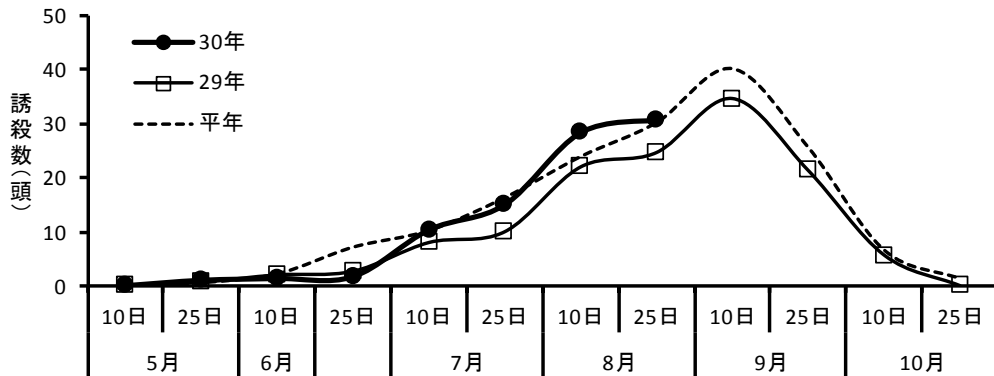


図10 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

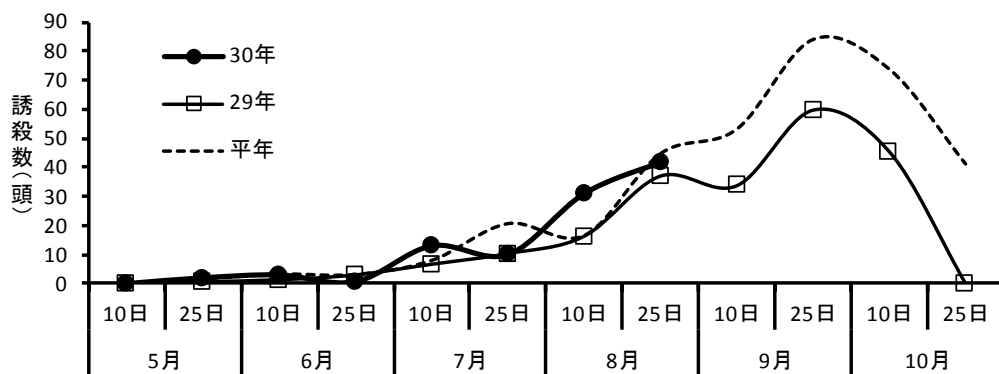


図11 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

IV 果 樹

1 果樹カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・フェロモントラップによる7月6半旬～8月4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は0.5頭で平年(2.4頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・園内への飛来に注意し、突発的な発生が確認された場合は速やかに防除を実施する。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。
- ・防除指針リンゴ157, 160ページ、ニホンナシ168, 171ページ、カキ181ページ参照

2 リンゴ・ニホンナシのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・現在までの発生量は平年より多い。

(3) 防除対策

- ・防除は草刈り後に実施する。徒長枝を切除する等、薬剤到達性を向上させる。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：リンゴ158ページ、ニホンナシ169ページ参照

3 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量はやや多かったが、現在までの発生量は少ない。

(3) 防除対策

- ・秋雨時期であり、防除間隔が開き過ぎないように注意する。
- ・徒長枝を切除する等、薬剤到達性を向上させる。
- ・台風などの風雨に遭遇した場合は速やかに防除を実施する。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：153, 155, 159, 160ページ参照

4 ニホンナシのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月4半旬の誘殺数は9.6頭で平年（11.9頭）並である。

(3) 防除対策

- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：164, 167, 168, 171ページ参照

5 ブドウのべと病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は少ないが、9月の降水量は平年並か多い予想されている。

(3) 防除対策

- ・徒長枝を整理し、収穫後の防除をていねいに行う。
- ・防除指針：174, 176ページ参照

6 カキ（三社）の炭疽病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・現在までの発生量は少ない。

(3) 防除対策

- ・炭疽病が発生している園地では、罹病した枝や果実を取り除く。
- ・台風などの風雨に遭遇した場合は速やかに防除を実施する。
- ・防除指針：179, 180ページ参照

7 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在までの発生量は平年並である。
- (3) 防除対策
 - ・病原細菌の越冬密度を下げるため、9月中旬～10月上旬にかけて15日間隔でICボルドー412（30倍）を散布する。
 - ・台風など強風が予想される場合は事前に薬剤を散布する。
 - ・秋季防除開始までに秋季せん定を行い、薬剤のかかりやすい樹形にする。
 - ・防除指針：183, 186ページ参照

V 花き・球根

1 きくのはもグリバエ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・8月25日調査の被害株率は0%と平年（0.5%）より低かった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 207 ページ参照

2 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は334頭で、平年（186頭）より多い。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 209～228 ページのハスモンヨトウの項を参照

3 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが59.0頭で平年（54.1頭）並、オオタバコガも72.7頭で平年（61.3頭）並であった。
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 208～228 ページのオオタバコガ、タバコガの項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

農薬は適用作物以外に使用できません。

また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。

さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 1か月予報

(9月1日から9月30日までの天候見通し)

平成30年8月30日
新潟地方気象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

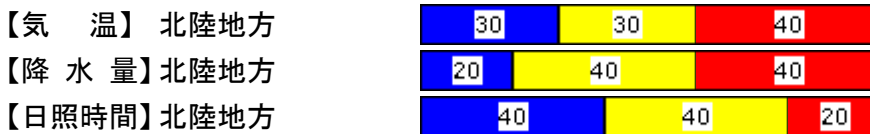
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: 低い 平年並 高い